

みんなで支えあう丹後こころの支援ネットワーク【京都府】

(ひとりじゃないよ～ともに生きよう)

(実施期間) 平成 24 年度～

(基金事業メニュー) 強化モデル事業

(実施経費) 1,346 千円

(実施主体) 京都府丹後保健所

【事業の背景・必要性・目的】

京都府内の自殺者数は平成 10 年以降急増し、毎年約 500 人の方が亡くなっている。その中で、丹後地域（宮津市、京丹後市、与謝郡伊根町、与謝野町）では、府内平均よりも自殺率が高く、行政と民間が連携して自殺対策に取り組む必要があった。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

□地域の環境等

丹後圏域は 2 市 2 町（宮津市、京丹後市、与謝郡伊根町、与謝野町）から構成され、京都府北部に位置する。総面積は約 840k m²で京都府の約 18.2%を占める。人口は約 105,000 人で、65 歳以上の人口が全ての市町において京都府の平均を上回っている。また、日本海に接する豪雪地帯でもあり、精神科医療機関や相談機関等の社会資源が少ない地域もある。

総人口	年齢3区分別人口(割合)			面積(km ²)	人口密度
	0～15歳未満	15～64歳	65歳以上		
京都府	2,593,965	334,444 (12.9)	1,653,812 (63.8)	605,709 (23.4)	4613.2
丹後圏域	104,799	13,841 (13.2)	57,716 (55.1)	33,242 (31.7)	840.2
宮津市	19,936	2,285 (11.5)	10,713 (53.7)	6,938 (34.8)	
京丹後市	59,023	8,042 (13.6)	32,718 (55.4)	18,263 (30.9)	733.1 ※
伊根町	2,410	200 (8.3)	1,182 (49.0)	1,028 (42.7)	
与謝野町	23,430	3,314 (14.1)	13,103 (55.9)	7,013 (29.9)	107.0
					218.9

※宮津市、京丹後市及び与謝郡伊根町は、境界の一部が未定のため、合計面積を示した。

出典:国勢調査(総務省統計局)22.10.1、国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」24.10.1

□自殺死亡動向

丹後圏域では、平成 10 年に自殺者が急増したのち自殺率は全国平均・府平均を上回る状況が続いていたが、各種の取り組みの結果、平成 24 年の自殺率は全国平均を下回った。(発見日・発見地)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
丹後	自殺者数	35	38	30
	自殺率	33.0	36.2	29.0
府	自殺者数	620	623	567
	自殺率	23.6	23.6	21.5
全国	自殺者数	32,845	31,690	30,651
	自殺率	25.8	24.9	24.0

【事業内容】 ※今後の検討事項も含む

- ① 啓発活動
- ② 自殺予防早期発見のためのゲートキーパー研修
- ③ 各種相談体制の整備
- ④ 相談機関等の対応力強化のための研修
- ⑤ 誰もが気軽に弱音を吐ける居場所の整備
- ⑥ その他自殺予防対策に資する事業
 - ・大学等と連携した実態調査
 - ・かかりつけ医対象の研修、かかりつけ医と地域との連携システムの構築
 - ・未遂者に対する退院後のケアの整備

ほっこリスペース無相堂(寺を活用した居場所)



【事業実施にあたっての運営体制】

丹後2市2町の自治体、NPO、福祉、経済関係等 153団体（平成25年4月1日現在）

【事業の工夫点】

- 保健所が中心となり、総務や農林、商工部門等、京都府丹後広域振興局全体の問題として取り組む意識を醸成するため、振興局各部門にまたがる連携会議を開催した。
- 地域全体で問題点を共有するため、まず府と市町村、社会福祉協議会、民生児童委員協議会が中心となって設立趣意書を作成し、管内の関係団体、民間企業等に幅広く参加を呼びかけた。
- 地域の課題として住民全体で取り組んでいく体制を明確にするため、振興局長をネットワーク長とともに、設立総会において清水康之氏（ライフリンク代表）による講演会を開催した。



【事業成果、その他特筆すべき点】

- 保健所のみの問題ではなく、地域全体で取り組んでいくという意識共有ができた。
- 今後の事業計画について、関係者と同意を得て進めていく体制づくりができた。
- 平成24年の自殺者数・率は、平成21年と比較して約4割減少した。

図1 ネットワーク図

